

# 障がいを抱える人の 「働きたい」をアシストしたい

## 株式会社 ルリアン

神奈川県相模原市中央区相生 1-1-12 サイドセブン 103

神奈川県相模原市で2024年4月より就労継続支援B型事業を本格的にスタートさせる『ルリアン』。小室社長は障がいを抱える人の「働きたい」という想いをかたちにすべく独立を果たした。鍼灸師の資格を活かし、利用者の心身のケアにも取り組んでいきたいと語る社長のもとをタレントの野村将希氏が訪問し、様々なお話を伺った。



代表取締役

小室 雅之

——小室社長のこれまでのご経歴から。

様々なアルバイトを転々とする生活をしていたのですが、26歳の時に父が脳梗塞で倒れまして。自分にできることはないかと思って友人に話をしたら、「鍼灸マッサージの学校に行かないか」と誘ってくれたんですね。それから専門学校で学んで鍼灸師の資格を取得し、マッサージ治療院で働く中で、高齢者の方を中心に針治療をしたり、リハビリや歩行練習をしたりといった仕事に携わりました。父はその後亡くなりましたが、たまに父のもとへ行行って関節を動かしたりマッサージをしてあげたりして、最後に少しは親孝行できたのかなと思います。

——素敵なお話です。お父様とご友人の存在が転機になったと言えますね。

そうですね。鍼灸師として患者さんと日々向き合う中で、次第に症状が改善されて笑顔が見られるのが嬉しく、直接「あ

りがとう」と言ってもらえることにやり甲斐を感じていました。その後、整骨院に転職して3年程働いたのですが、雇われの身だどうしても給与水準が低いのがネックでした。そこで資金を貯めて定年後に自身で事業を立ち上げようと考え、工場勤務に転身したんです。

——そこから今回起業された経緯とは。

昨年12歳年上の兄が脳梗塞で倒れたんです。間もなく定年を迎えるところで本人は仕事を続けることに意欲的でしたが、車椅子生活になって施設に入ること。会いに行くと、仕事をしたいのにできないもどかしさを抱えている様子でした。そこから就労支援に興味を持ち、仕事をしたくてもできない障がい者の方が多く存在していることを知ったんです。そんな中フランチャイズ展開されている『ARU』さんと出会い、加盟して事業を立ち上げようと決意。一般的な就労継続支援は、事業所に通所して事業所内で作業するところが多いですが、『ARU』さんは在宅に力を入れていまして。精神障がいを抱える方はなかなか外に出られなくて、自宅でもらえるという人もたくさんいるということも知ったので、そういった方もサポートできると考えたんです。幸いなことに妻も後押ししてくれてありがたかったですね。

——大きな一歩を踏み出され、不安はありませんでしたか。

もちろん不安はありますが、『ARU』

の本部の方など周囲の方々に支えられ心強く思います。この4月から本格的にスタートする予定でして、チラシ折りやアクセサリーの製作、YouTubeなどの動画の編集といった幅広い業務を提供するほか、作ったアクセサリーをYouTuberなどのインフルエンサーさんのサイトやカフェなどで販売するというかたちで収益確保につなげていく予定です。また昔の感覚ですが、グループホームや作業場は暗いイメージがあったので、雰囲気から変えていきたいと考えています。それから、自宅で作業をすると利用者さんの体の負担も大きくなると思うので、利用者さんとの信頼関係のもと、鍼灸師の資格を活かして心と身体のケアをできればいいですね。そしてゆくゆくは地域の企業さんともタッグを組んで、中小企業ひいてはここ相模原市の地域活性化にも寄与できればと考えています。

(2024年2月取材)



interviewer  
野村 将希

就労継続支援事業で基盤を築き、ゆくゆくは在宅での鍼灸マッサージ事業にも着手したいと意気込んでおられた小室社長。シナジー効果が生まれることを期待しています！

